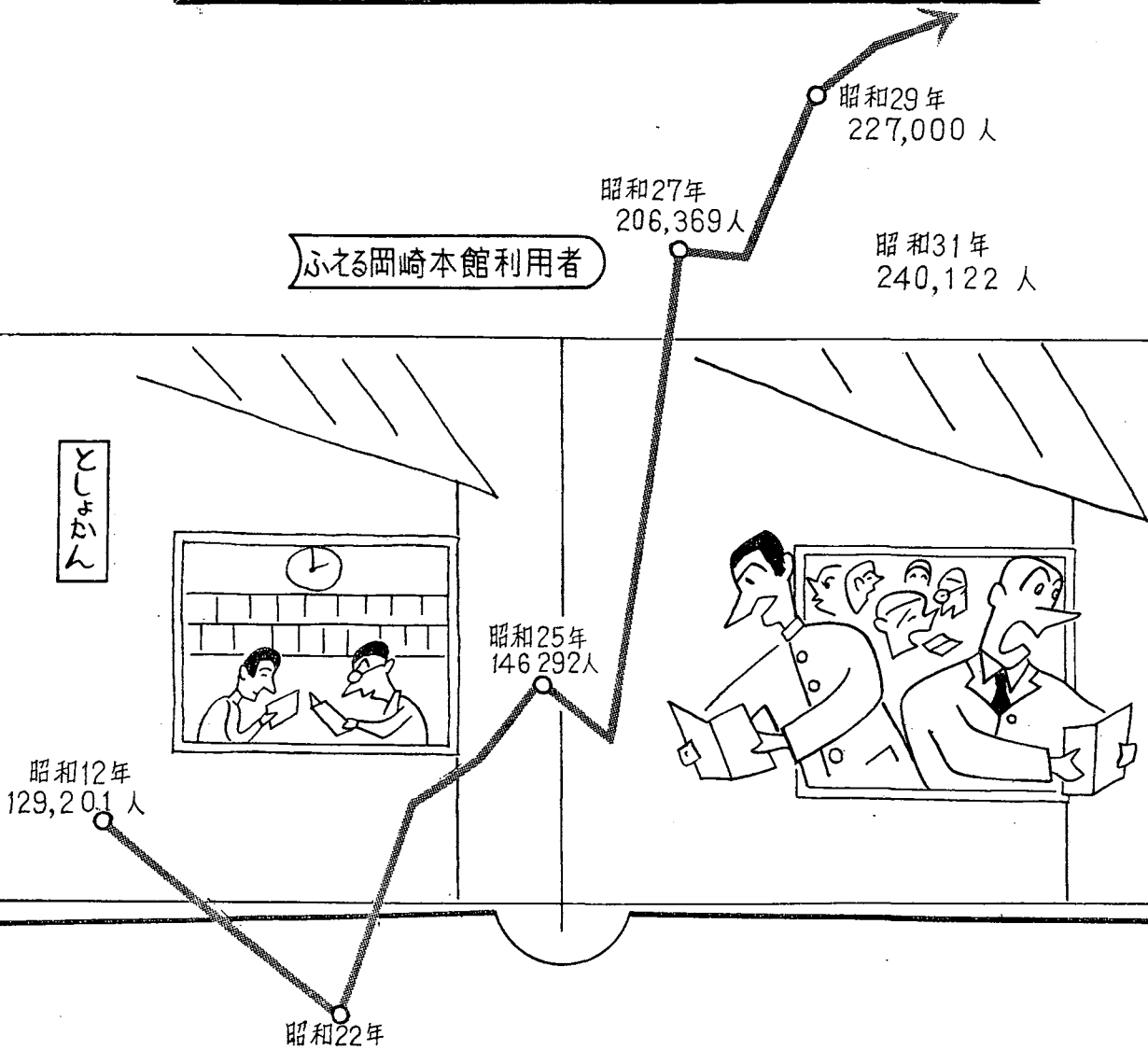


昭和31年度事業報告

(1956. 4. 1~1957. 3. 31)

ふえる岡崎本館利用者



京 都 府 立 図 書 館

京都市左京区岡崎成勝寺町 9 電・吉田(7)0069・2450

1. 概 況

昭和31年度の岡崎本館利用者数は更に増加し、新記録をつくつた。3・4月以外には常に館外にあふれる利用者の行列ができ、最もはなはだしい時には開館前から終日行列が絶えなかつた程である。

このような利用希望者の増加に反して、現在の本館ははなはだ狭小でかつ建築以来すでに半世紀を経て腐朽がいちじるしい。このため昭和31年3月6日、京都大学名誉教授新村出、京都博物館長神田喜一郎など8氏によつて、京都府立図書館の新築移転に関する請願書（約25,000人の賛成署名簿を添付）が京都府会に提出され、文教委員会で慎重審議の結果本会議において請願の趣旨を了として採択された。新しい構想にたつすぐれた図書館の実現は多数府民の待望するところであり、その方向に一步を印したものとえよう。

本年は上京分館ならびに河原町分館の移転問題で多事であつたが、それぞれ困難を打開して拡張振興の道を発見することができた。

2. 館内利用者(本館および市内3分館)

本館および市内3分館における本年度館内利用者総数は約330,000人であつた。

年度別に利用者数の動きを示すと右のとおりである。

備考 昭和31年度において河原町分館は9月1日から7カ月間閉鎖

年 度	利用者数(人)	1日平均(人)
昭和12年(戦前最高)	129,201	390
昭和28年	304,741	1,097
昭和29年	343,157	1,215
昭和30年	359,599	1,283
昭和31年	330,915	

3. 館外貸出冊数(地方6分館および貸出文庫)

地方6分館および貸出文庫において、各種書体に対し長期貸出(期間1カ月)を行つている。

なお、これらの長期貸出図書は1カ月の貸出期間中に各冊平均約3人の手を経て読まれるからこの分の本年度利用者総数は約270,000人と推定される。

備考 昭和31年度綾部地方分館主任病気のためこの分館の全機能一時停止。

年 度	冊 数(冊)
昭和28年	77,443
昭和29年	84,307
昭和30年	100,113
昭和31年	90,416

4. 京都市内4館の利用者の内訳

	本 館	伏見分館	中京分館	上京分館	合 計
利用者数(人)	240,122	49,816	16,203	24,774	330,915
利用冊数(冊)	320,428	81,403	14,832	40,745	457,408
開館日数(日)	275	227	132	266	
1日平均利用者数(人)	873	180	123	93	
男 (%)	73	66	89	77	
女 (%)	27	34	11	23	
一 般 (%)	25	15	63	22	
学 生 (%)	75	85	37	78	

学生の類別は岡崎本館における調査では

大学生 31% 高校生 38% 中学生 11% 小学生 11% 各種学校 9%となつている。

5. 利用図書の内容

岡崎本館の利用冊数は約320,000冊で、1日平均1,165冊である。

これを図書の分類別にみると右のとおりである。

総 記	2.8(%)	哲学宗教	2.3(%)	歴史地理	8.1(%)
社会科学	8.1	自然科学	10.8	工 学	3.2
産 業	1.3	芸 術	3.3	語 学	4.8
文 学	16.5	児 童	16.3	新聞雑誌	22.5

6. 蔵書冊数

昭和31年末における当館の蔵書冊数は247,000冊をこえ、その配置別は右のとおりである。

本年度における増加図書数は6,425冊(購入=5,47

本館	214,290(冊)	峰山地方分館	3,855(冊)
伏見分館	5,675	宮津〃	3,832
中京分館	4,027	綾部〃	3,777
上京分館	4,407	園部〃	2,390
		北桑〃	2,412
		木津〃	2,381
		合計	247,046

9、受贈=569、編入受入=410、数量更正による減=33)。亡失、き損、不用による除籍図書数は912冊であつて差引年間5,513冊の純増である。

7. 開架図書の利用状況

岡崎本館では大閲覧室および学生室の一部に開架書架を設けて、新刊書、基本図書、雑誌をおき児童室に完全開架制を行つている。開架図書の利用は非常に多く本館における成人の利用冊数では約8割を占めている。大閲覧室 約10,000冊 学生室 約3,000冊 児童室 約3,000冊

8. 読書相談奉仕

図書館の資料が十分利用されるように、専任の係(係員2名)をおき、利用者の質問、相談に応じ実効をあげてきた。

最近とくに、官公庁、会社、報道機関、文化団体、

口頭	11,383件	電話	2,543件	郵便	157件
計	14,083件	開室日数	275日	1日平均	51.2件

一般社会人が、実務の必要からこの業務を利用する傾向がつよくなつてきた。今後、京都府下の関係各機関とも連絡を密にして一層サービスしたい。なお、この係では相談事務のほか、特許庁発行諸公報の整備、展示会の開催、貴重図書、特殊資料の保管、利用、文献目録の編集、図書館見学者の案内にも当つている。

9. 雑誌目録の新設

これまで本館には所蔵雑誌目録が不備なため、利用者には不便をかけていたが、本年度においてようやくバックナンバーの整備も終り、それらに対する2種類のカード目録、すなわち①分類目録(日本10進分類法による)と②誌名目録(誌名の50音順)を完成して、利用者には提示することになった。

本館では、明治初年からの学術雑誌、総合雑誌を中心とする主要な雑誌をかなり網羅的に所蔵しているので、この目録の設置は利用者には大きな便宜を与えることになる。

10. 児童室

少年少女のために、よい読書環境をつくることはきわめて大切である。当館は児童室の充実に絶えず力を注いでいる。

本年度の利用児童は20,100名(男57%、女43%)で、図書館附近の小学校の児童が多い。

なお、利用児童が図書委員となつて、児童室運営に協力している。

11. 分館

(1) 伏見分館(昭和25年2月開設)

伏見地区は岡崎本館から約8kmはなれ、分館の必要性がつよい。

この分館は、はじめ他の建物の一部を借りて出発し、一昨年快適な新館舎の落成をまつて移転再開した。敷地260坪、閲覧室70坪、座席120である。独立館舎をもつた初の本格的分館(コミュニティー・ランチ)として、将来洛南地区文化センターの役割を果す日が期待される。

本年度の入館者数は、1日平均180名、1日最高455名であつた。

(2) 河原町分館(中京分館)(昭和24年6月開設)

この分館は、京都市の繁華街河原町通に面する丸善京都支店の地階を借りて出発し、新刊の小説随筆、新聞雑誌を中心に完全開架制をとり、気軽な市民の読書室として親しまれてきた。利用者は

殆んどが成人であり、一般人が学生よりも多く全体の60%を占めている。ところが31年8月末丸善の店舗拡張のため立退を余儀なくされ一時閉館した。

本年末になって、各方面と接衝の結果、中京区烏丸丸太町自治会館3階を移転先とすることに決定し、7月ぶりにようやく再開の見通がたった。

(3) 上京分館(昭和26年4月開設)

京都市北部地区も岡崎本館から遠く、ここに上京分館が設置され活動してきた。

4月下旬、それまで借用していた紫郊会館から現在の北区等持院の故木島桜谷画伯元画室に移った。移転先は市電交叉点に近く、周囲は住宅地帯である。新館舎は約60坪で閲覧席80を有し、広い庭を前に控えて明るく快適である。資料も増し、名実共に旧に倍した充実ぶりである。

本年度入館者数1日平均93名、1日最高274名であつた。

(4) 地方分館

昭和25年に峰山・宮津・綾部の3館、次いで昭和27年に園部・北桑・木津の3館が開設され、現在6館である。これらの地方分館は、地域内の公民館、婦人会、青年会、読書会などの団体に対して30冊ないし50冊を期間1カ月で団体貸出するものである。

なお、文部省国庫補助を得て、「青年学級文庫」を購入し地方6分館および本館貸出文庫に配して「青年学級」の読書活動を援助している。

館名	利用団体数	利用冊数(冊)
峰山地方分館	622	17,562
宮津地方分館	567	16,470
綾部地方分館	328	10,370
園部地方分館	378	12,886
北桑地方分館	446	14,652
木津地方分館	554	11,409
合計	2,895	83,349

12. 貸出文庫

本館内にあり、主として京都市内および近郊の団体に対する貸出を行つている。

本年度における利用団体数190、利用冊数7,067冊。

13. 研究集会

分館経営に関する研究集会。昭和31年4月28日、伏見分館において近畿公共図書館研究会と当館の共催で開かれた。参加者は千葉から宮崎まで約20府県の図書館関係者80余名であつた。

14. 印刷物

主な印刷物は「分館の現状および将来」。前項にあげる分館研究集会の記録である。

15. 本館に対する主なる寄付

(1) 寄付金

京都市東山区祇園京菓子商島本卯兵衛氏から10,000円。新館建築基金才1号として。

(2) 寄贈図書

岡村米蔵氏(京都市中京区大宮錦上)からフランス文学関係書52冊。

高丘治季氏(京都市上京区寺町鞍馬上)から建築書430冊。

山口格太郎氏(京都市左京区田中阿達町)から消防関係書61冊。

16. 経費

本年度諸経費は約16,440,000円で内訳は右のとおりである。

なお、本年度末における館員数は主事22名、主事補23名、傭人1名、臨時職員7名、計53名である。

費目	決算額	比較
人件費	約 12,350,000円	75.1(%)
図書館資料費	約 2,470,000円	15.0(%)
図書費	約 1,720,000円	10.5(%)
定期刊行物	約 750,000円	4.5(%)
その他の経費	約 1,620,000円	9.9(%)